

「信用」を大切にすることが九州電力のCSRです。

ライフラインを担う使命と責任

皆さま、日頃から電気をお使いいただきありがとうございます。

当社は従来から、ライフラインを担う公益事業者として、低廉で良質な電気を安定的にお届けするという社会的責任を果たしてきました。

また、地域社会との協調なくしては設備形成・運用もなしえないものであり、社会からの信頼を、より強固なものとするための諸活動に取り組んできました。

エネルギー市場における競争が本格化する経営環境下においても、安全を最優先に、電気を安定的かつ効率的にお客さまにお届けし続けることが、私どもの基本的使命であり、社会に対する最大の責任であることに変わりはありません。

当社は、この責任を果たしていくことに誇りを持ち、誠実かつ公正な事業活動に努めてまいります。

社会の持続的発展への貢献

企業は社会の一員であり、昨今の企業不祥事をみても、社会との関係性を無視して企業が存立することはありえません。

また、近年のグローバル化や規制緩和、行政改革などに伴い、社会における市民や地域コミュニティなどの役割が増大してきており、同様に社会の一員である企業の責任・役割も重要性を増していると実感しています。

一般的に、「CSRとは、企業が持続的に発展するために、法令遵守にとどまらず、社会が

企業に対して抱く、経済的、倫理的、公共的な期待に応え、社会の持続的な発展に貢献すること」と言われています。

これは、「九州電力グループ経営ビジョン」や「九州電力グループ行動憲章」に掲げる「お客さま、株主・投資家、社会、従業員の満足度を高めることにより、自らの企業価値を持続的に創造し、社会とともに発展する」という経営姿勢に合致するものです。

この経営姿勢の実践こそが、九州電力グループの「CSR」であると考えます。

そして、私が就任以来言い続けている「信用を培い、かつ維持する」という基本理念も、まさにこの「CSR」にあたるものです。

CSRエクセレントカンパニーを目指して

コンプライアンス経営、情報公開、環境経営、地域との共生などのCSRへの積極的な取り組みは、社会の発展に寄与するだけでなく、九州電力グループの持続的な価値創造や競争力の向上にもつながるものです。

それだけにこうした取り組みは、国や社会の要請や情勢に基づくものではなく、あくまでも自らの行動原理から湧き出るものとして、地道に進めていくべきものと考えます。

これまでも当社は、このような考え方に基づいた取り組みを積極的に行ってきましたが、更なる充実を目指して、昨年6月に「CSR担当役員」を任命するとともに、7月には、経営幹部で構成する「CSR推進会議」を設置しました。

この体制のもと、CSRエクセレントカンパニーを目指した、実効ある施策を推進しています。

ステークホルダーの皆さまとともに

最近、「会社はだれのものか」という議論が盛んに行われていますが、私は、会社とは、「だれかの“もの”」ではなく、「社会の公器」であり、「様々なステークホルダーが価値の創造を図る“場”」であると考えます。

当社が、お客さまをはじめ、株主・投資家の皆さま、地域社会の皆さま、従業員など、当社に関わる様々なステークホルダーの皆さまにとって、「価値の創造を図る“場”」であり続けるためには、ステークホルダーの皆さまの「声」をお聞かせいただき、そのご意見・ご要望を経営や業務運営に反映させるといったCSRマネジメントサイクルを構築することが不可欠です。

その中核をなすものとして、今回、グループ会社の取組みも含めた「九州電力CSR報告書」を発行することといたしました。

今後、この報告書をもとに、より多くのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通して、当社のCSRへの取組みを更に充実させていきたいと考えております。

皆さま、どうぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2006年6月

九州電力株式会社
代表取締役社長

松尾新吾

